

●ポスターセッション (P-排水処理・排水の種類・P-K01～P-K05)

PK-01 では、鉄鋼排水処理において、処理施設の機能診断や処理能力低下時の改善を検討するための、数値流体解析を導入した解析モデルを構築していた。スケールピット、横流式沈澱池、接触酸化槽の3事例において解析モデルを適用しモデルの妥当性を確認するとともに、実際の改善診断に利用されていた。

PK-02 では、事業場排水中の水質項目を分析し、業種毎の水質特性把握を実施していた。事業場排水の検体は、業種毎に特性・濃度も大きく異なる為、それらを精度良く効率的に水質分析を実施する上で本研究のデータは貴重な情報となると考えられる。

PK-03 では、現地で水環境保全上、問題となっている搾乳機洗浄排水、廃棄乳の処理法について、凝集処理の適用を検討していた。PAC を用いた凝集処理によりパーラー排水処理は可能であることが示された。今後は汚泥処理、廃棄乳の処理も含めた処理システムの開発が望まれる。

P-K04 では、一般には排水処理後廃棄されている豚尿について、持続可能なり活用システムの構築を目的とした、液肥生産と利活用システムの検討が行われていた。今後は本システムを軌道に乗せるために、年間を通じての成分の安定化や恒常的な需要の確保、コスト面の制約を克服するための様々な周辺整備が必要になるとのことである。

P-K05 では、養豚排水処理施設に対して実態調査をした例が紹介された。通常は入手困難な畜産事業所排水の季節変動を調査されていた。その結果、同一事業場でも季節的にも窒素組成は大きく変動しており、その組成に応じた処理が必要で、Anammox 処理の利用も提案された。

(福岡県保健環境研究所 熊谷 博史)